

「天から降りた古河市兵衛」

一般社団法人 日本銅センター 会長
古河機械金属株式会社 代表取締役社長



宮川 尚久

今年三月、東京日本橋にコレド室町2・3がグランドオープンした。写真は、そのコレド室町2が入る「室町古河三井ビル」の階北側に鎮座する古河市兵衛の胸像である。市兵衛は明治八年に弊社を創業し、足尾銅山を中心に事業を拡大して古河グループの礎を築いた。『鉱山王』『銅山王』と呼ばれた創業者の功績を讃えるべく、市兵衛が明治三六年に他界した後、数種類の銅像が造られた。写真の銅像は、制作年代ははっきりしないが、二体の存在が確認されている最も大型の胸像である。

「室町古河三井ビル」の敷地の半分は、昭和三六年建設の「古河ビル」の跡地であるが、同地は市兵衛が足尾銅山開発に着手した明治一〇年に本店を設けた市兵衛ゆかりの場所である。胸像は、その「古河ビル」の屋上に設置され、社員によって守られてきたもので、今回の新ビル完成を機に、天から地上にお降りいただいた次第である。お蔭で一般の方々にもご覧いただける。市兵衛はここから次々と足尾に指示督励をしていたと言われているが、この胸像は足尾を向いて設置されている。また、日本橋川沿いの常盤橋公園にある盟友・渋沢栄一の銅像にも少し近づいた。市兵衛もご機嫌のようである。胸像側には、今秋にも福徳神社の御社殿が建立され、数年後には鎮守の森が広がると聞いている。市兵衛銅像の終の棲家として、これ以上に相応しい場所はないであろう。

また、この銅像とは別に、その銘文から明治四三年に造られたことが明らかで五〇cm程の小型の立像がある。これは、本店や古河家等に安置されたほか、弊社鉱山の鉱山神社に奉納されたと伝えられているので、二〇体近くは造られたものと考えられる。私はかつて旧廃止鉱山関係の仕事を兼務していた時期があり、各地に出張の機会が多かった。当時旧鉱山の無人の鉱山神社で立像を見つけたが、現在は山から下ろし、安全な場所で保管している。その後も機会をみて幾つかの旧鉱山の鉱山神社等を探索してみたが、新発見はなかった。戦時中の金属類回収令に従い供出したとも言われており、現在は六体の存在が確認されているだけだが、いつの日かもう一度旧鉱山周辺を探索して、七体目の立像を見つげたいと夢見ている。



地上に降りた古河市兵衛像

銅

目次

- 2 カパーロマン
「天から降りた古河市兵衛」
宮川 尚久
- 3 ルポルターージュ
トルコと日本をつなぐー
海の物語と銅の銅
- 6 リレー随想
「その時その場所」で感じること、
そこから世界を考えること。
谷山 恭子
- 8 ユーザー訪問
少量多品種・短期で差別化を図る
銅管を使った
カスタムメイドの熱交換器
- 10 アート／クラフトの世界
銅人形は街の顔
「黄金の仔馬の誕生」が完成
圧倒的な存在感を放つ手作り腕時計
寶石のように美しい銅製生活用品
- 12 銅の歴史物語
伝統ある金属加工の町ー燕の銅具
随筆再掲載
- 13 銅鍋・土鍋
江上 トミ
- 14 銅センターニュース